

20m06HO提出課題等

目標に準拠した評価の意義と展開

教育方法論 m 第6回

テーマ「目標に準拠した評価と意義の展開」

(1) 「新しい時代の教育方法」から

●「相対評価」に対して定義された「目標に準拠した評価」は子ども達の達成度を把握しすべての子ども達が「目標」に到達するような取り組みを強める評価方法である。

- 1)相対評価は集団のどの位置にいるのかを示したものにすぎない
- 2)目標に準拠した評価は評価結果をふまえて教師の教育生活の反省と子ども達への援助
- 3)目標に準拠した評価の課題：目標の「質」と子ども達sが評価行為に「参加」という視点の弱さ
- 4)課題を改善したものが「真正の評価」

(2) 「教育評価の理論と実践 —真正の評価をめざして—」

●真正の評価：「リアルな課題」に取り組ませるプロセスの中で子どもたちを評価することである

- 1)できるだけ日常文脈に即した生態学的に妥当な状況で心理学実験は行われ、そこでの法則こそが意味あるものであるという主張
⇒教育評価を真正なものにするにはより日常文脈に即した方法でリアルな課題に取り組ませる必要がある
- 2)真正の評価へと高めていくことが教育評価についての最大の「目的」であり「課題」
- 3)真正の評価とは要するに「よい評価」を目指すことを目新しい言葉で言い換えているに過ぎない

(3) その他のネット資料から長所・短所

●教科書 p230 ④にあたるパフォーマンス評価について

パフォーマンス評価：あらかじめ可視化されたパフォーマンス課題を基準にして行う評価方法

- 1)事前に課題を明確にして、その課題に対するパフォーマンスをルーブリックと呼ばれる基準に沿って評価
- 2)評価者と被評価者の双方が課題に対して明確なフィードバックが得られる
- 3)表面的で幅広い理解だけでなく、より個別的で詳細な評価を行うことができる
- 4)従来のテストでは容易に理解することができない実践的な能力について、より具体的に把握することができる

(4) 自分の意見

●

ポイント 1)

- 2)
- 3)
- 4)

(5) 出典(文献名、url 等)

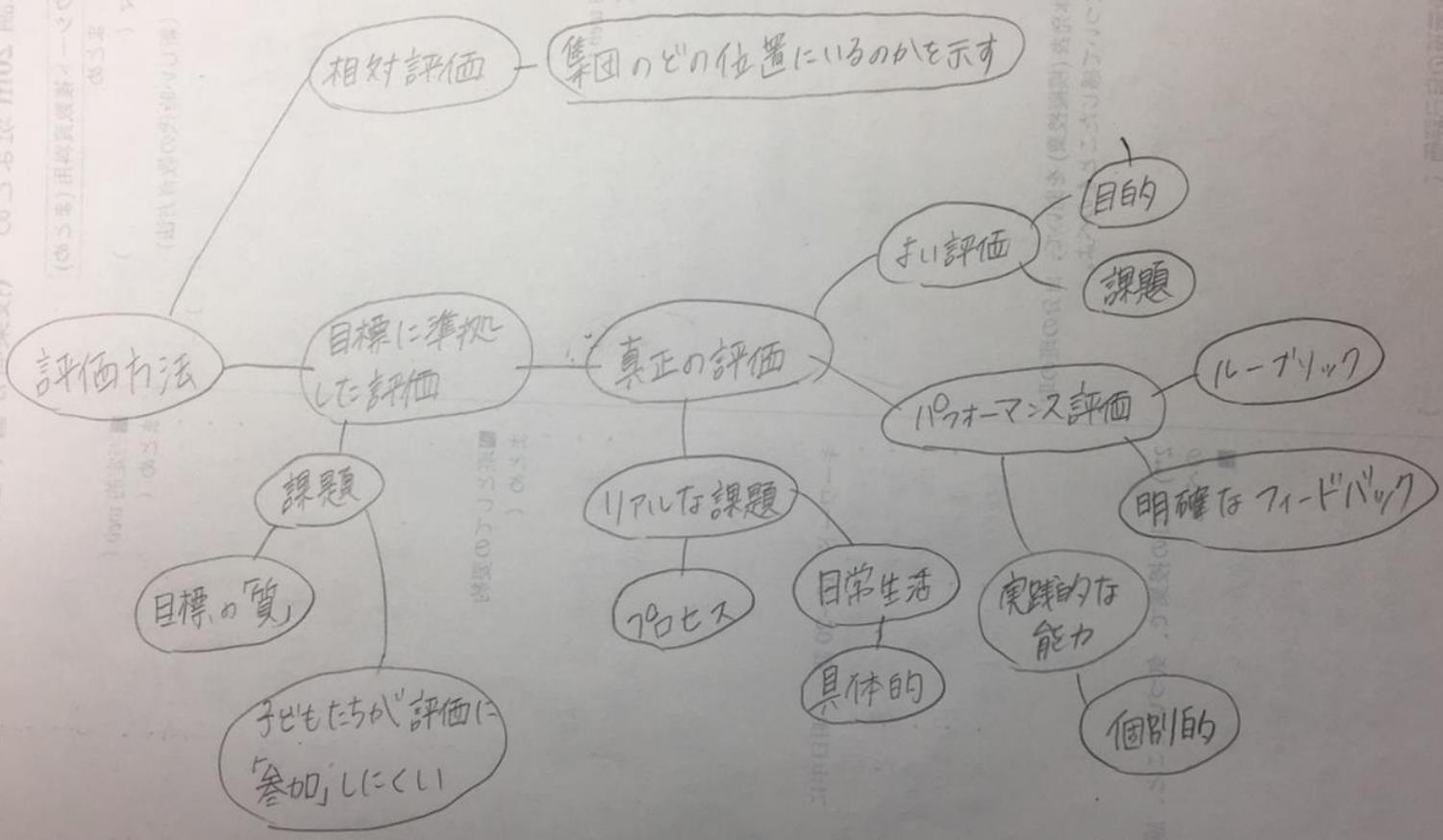
(1)「教育評価の理論と実践 —真正の評価をめざして—」 山口陽弘・石川克博

https://gair.media.gunma-u.ac.jp/dspace/bitstream/10087/6822/1/NO29_2012_all_Part20.pdf

(2)「パフォーマンス評価とは～その意味とメリット」

<https://resilient-medical.com/nurse-management/performance-assessment>

(3)



形成的評価と自己評価

教育方法論 m 第 6 回

テーマ「形成的評価と自己評価」 3 班

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●子どもたちの学力や発達を保障するための評価するために「教育評価」だけでは不十分である。ブルームは、授業課程で実施される評価の機能を「診断的評価」「形勢的評価」「総括的評価」の3つに分類し、それぞれに即したフィードバックが重要であると説いた。ブルームが提唱した「形成的評価」には行動主義の残滓があり、今日では「自己評価」との結合を促す構成主義的な学習観によって理解されている。

- ポイント 1) 診断的評価の機能
- 2) 形成的評価の機能
- 3) 総括的評価と機能
- 4) 自己評価

(2) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●各教科、特別活動及び総合的な学習の時間の指導過程において、ルーブリックを活用した形成的評価を行う

- ポイント 1) 目標評価と形成的評価の視点
- 2) 評価規準表の活用状況
- 3) 個に応じた指導の充実

(3) 自分の意見

全体の要点●

どのタイミングでどのような評価方法を用いるべきか。

- ポイント 1) 学期はじめ、学年はじめ、には診断的評価
- 2) 授業の課程(単発ではなく、複数回にわけて)で形式的評価を行い、授業がねらい通りに進んでいるかを確認して、軌道修正をはかる。
- 3) 学期終わり、学年終わりには総括的評価を行い、まとめや振り返りを行う。
- 4) 自分で自分を評価し、どのように自分を見えているのか。また、その情報から、今後の学習行動を調整する。(=自己調整)

(4) 出典(文献名、url 等)

- (1) 文部科学省(2017). 「中学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
- (2) 文部科学省(2018). 「高等学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
- (3) <http://www.ypec.ed.jp/center/kenkyukaihatu/kiyou/H15/ru-burikkuH15.pdf>

形成的評価と自己評価

診断的評価

自前のテスト

計画改善

学習形態

形成的評価

経過

つまづきの発見

計画修正

自己修正

自己評価

自己調整

メタ認知

メタ認知的知識

メタ認知的
活動

学びの活性化

総括的評価

学力の発展性

結果 反省

パフォーマンス評価 とポートフォリオ評価

教育方法論 m 第 6 回 テーマ「パフォーマンス評価」と「ポートフォリオ評価」

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

ポイント)

- ・ パフォーマンス評価・・・子どもたちが知識を実際の世界にどの程度うまく活用させているのかを測るもの。学び得たことを様々なメディアを使って表現させる方式。代表的な方法として「自由記述式問題」と狭義の「パフォーマンス評価」がある。
→メディアは文字,図,グラフ,絵などの表現や,実際に演出するという表現もある
- ・ ポートフォリオ評価・・・学習結果としての完成品だけでなく,日常の学習過程で生み出される様々な「作品」を蓄積することを大切にしている。
実践を開始する前,実践の過程,実践のまとめを行う際に,教師と子どもたち,また,保護者や地域住民も参加して「検討会」を行う。
→「ポートフォリオ」とは,学習過程で生み出される「作品(ワーク)」を蓄積する容器または「作品」そのものを指す。
→「検討会」とは,どのような「ポートフォリオ」を取捨選択するか,発表会ではどの「ポートフォリオ」を使うかをめぐって話し合いが行われる。
- ・ ルーブリック・・・評定尺度とその内容を記述する指標から成り立っていて,「評価指針」と訳される場合が多い。この評価指針は学習課題に対する子どもたちの認識活動の質的な転換点を基準として段階的に設定され,指導と学習にとって具体的な到達点の確認と次のステップへの指針となる。このとき,この「ルーブリック」は子供たちにわかりやすい表現で「公開」することが大切である。

(2) その他のネット資料から長所・短所

パフォーマンス評価のメリット・デメリット

ポイント)

メリット

→評価者と被評価者の双方が課題に対して明確なフィードバックが得られる

- ・・・予め課題と評価基準が明確であり,評価尺度も決まっている為,表面的で幅広い理解だけでなく,より個人的で詳細な評価を行うことができる

デメリット

- 点数化されない能力の評価が難しい
- 評価がぶれる可能性

(3) その他のネット資料から長所・短所

ポートフォリオ評価のメリット・デメリット

① 評価者は、学習過程で生み出される作品を蓄積し、発表会などで展示・発表を行う。② 評価者は、学習過程で生み出される作品を蓄積し、発表会などで展示・発表を行う。

ポイント)

メリット

- 過程・プロセスを評価するので、その人本来の能力を把握しやすい
- 学習方法や成果をこまめに確認できる
- ポートフォリオの作成そのものが学びとなる

デメリット

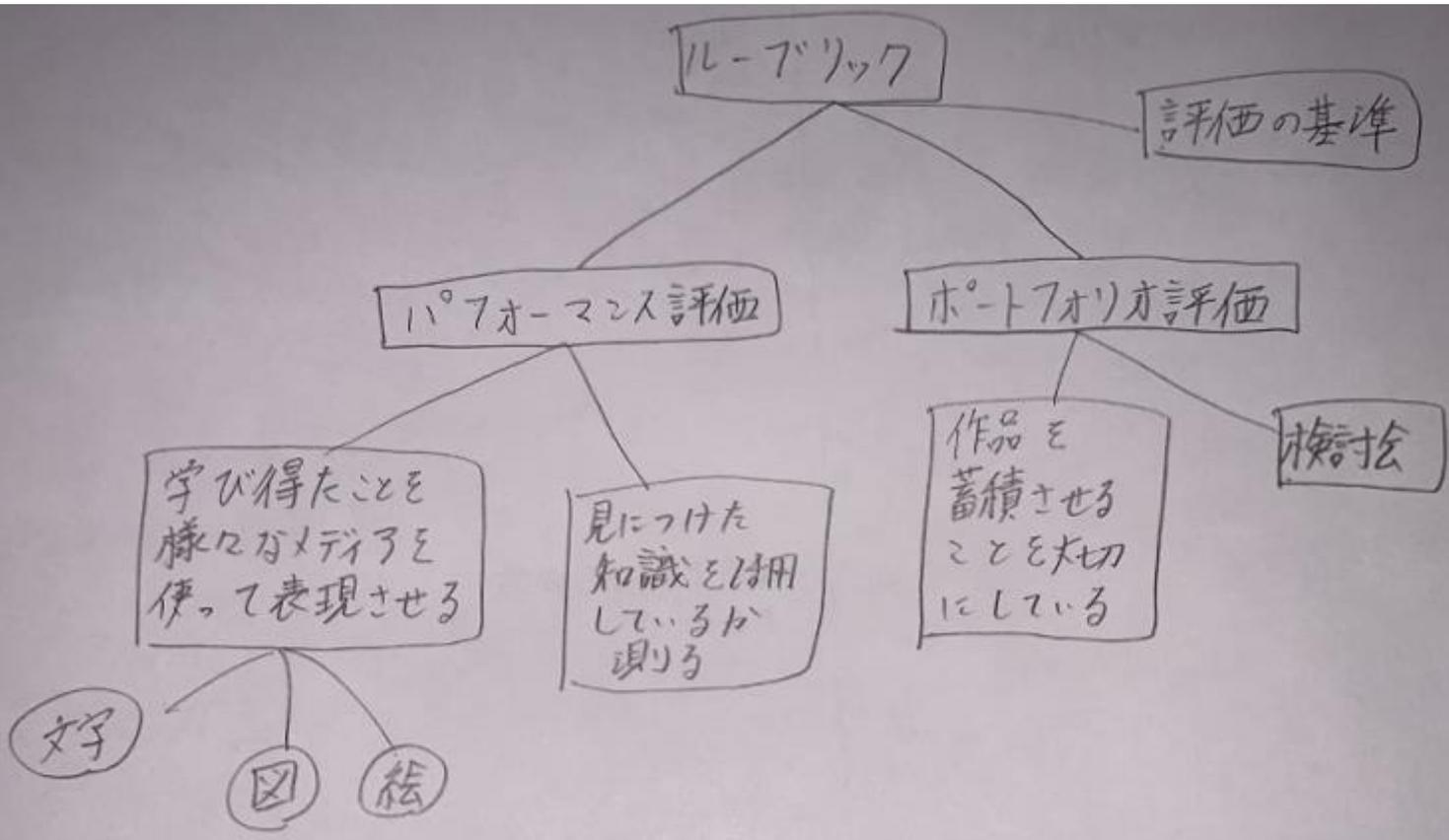
- 教師がポートフォリオを通じてどのように評価すればいいのかわからない
- ポートフォリオの作成に手間がかかりすぎると、生徒にかかる学習の負担が増える恐れがある。
- ポートフォリオを取り入れた新しいカリキュラムを組み生徒一人ひとりの状況に合わせてコメントを書く手間が大きい

(4) 自分の意見

パフォーマンス評価とポートフォリオ評価の長所・短所を調べてみて、改めてルーブリックの存在が大きいことが分かった。しかし、ルーブリックを作成するに当たって、教師たちの「授業研究」と「モデレーション」を通じて的確に把握される必要がある為、ルーブリックこそ重要視する必要があるのではないかと思った。

(5) 参考 url

- (1) [【https://career-ed-lab.mynavi.jp/career-column/936/】](https://career-ed-lab.mynavi.jp/career-column/936/)
- (2) [【https://resilient-medical.com/nurse-management/performance-assessment】](https://resilient-medical.com/nurse-management/performance-assessment/)
- (3) [【https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/04/1395572_02.pdf】](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/04/1395572_02.pdf)



ICT活用例

ICT 活用例

3 班

1. 単 元

体育

2. テーマ

ICT 機器を使った体育の授業の充実

3. ICT 活用のねらい

- ・視覚での動きを把握できる利点を生かし児童の体育への興味・関心を高める
- ・特別支援学級児童への配慮の充実
- ・客観的に見ることによって技能を高める

4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用の場面 (体育の授業)	ICT 活用の手順 ○めあてを立てる ・自分なりにどうするかを考える ○めあてをもとに技に取り組む ・紙に書いたとおりに実行してみる ○自分の動きを機械(パソコン・タブレット)を用いて確認する ・遅延再生機能、スローモーション再生機能、連続再生機能を使って自分の動きを客観的に把握する ○改善点を明確にする ・その改善点をもとにまた目当てを立てる ・映像を介したことによって児童との教え合いを活性化させることができた。 ・自分の動きや友達の動きを見ることによってお互いに意見交換ができ、教え合い学習ができた。	○ ○ ○
備考 使用教科書 準備物 ipad, パソコン 授業形態と工夫		

5. 出典・参考等

- ・ICT 機器等を活用した体育の授業の充実

https://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/b_menu/other/__icsFiles/afieldfile/2014/12/04/1353819_3.pdf

確認問題05

教育方法論 m

確認問題 05

(1) 教科書の補充として、教師が独自の教材を作るとき、学習者の実態として考慮すべきことを、「興味」以外に3つ挙げよ。

関心, 意欲, 能力

(2) 次の、教材概念の拡張に関する文の、空欄を埋めよ。

子どもたちの(協同的)・対話的な学びを志向する(授業)では、教材の概念を拡張し、子どもたちが学びあうための材料・(素材)としての(学習材)概念への転換が必要である。その場合、最も重要になるのは、授業において(生成)される子どもたちの発言・文章である。これをもとにして話し合いや(討論)が展開していく。真の意味で学び合いが成立するのは、(一見)ズレているように思われるが、実は重要な意味を(内在)しているような子どもの発言・文章である。教師はそうした発言・文章の(価値)を見抜き、それをほかの子どもたちの前でうまく引き出し、授業の中に(生かす)ていかなければならない。第8章3節1項

(3) 「メディアと教育は本質的に背馳する一面がある」という主張について、簡潔に説明せよ。

メディアを伴った自由にな拡張する立場と、

メディアを制限し秩序を守る主張する立場の相克がある。

(4) 「教材づくりにおける『上からの道』『下からの道』『メディアリテラシーの素材として教科書を活用する』『電子黒板において注目される機能』のうち1つについて簡潔に説明せよ。

「教材づくりにおける『上からの道』『下からの道』について、

『上からの道』... 教科内容から教材へと下降
↳ 教科内容の教材化

『下からの道』... 教材から教科内容へと上昇
↳ 素材の教材化

**) 確認問題 02 を自己評価し、

気づいたこと、感じたことをのべよ

■ 5段階自己評価 (4)

■ 教材を作る時には、様々な方法があり、生徒に道は2つ興味、関心、意欲、能力を考慮して作らなければならない。

(2) に つ いて .

